

二十五年十一月五日 海軍 軍務局 45.3.7

要機密第五九號

明治四十五年十一月五日

馬公要港部司令代理

海軍本部

海軍大臣

副官

廣瀨弘教

馬公要港部司令代理 廣瀨弘教

第二師長

海軍大臣男爵廣瀨弘教

馬公要港部司令代理廣瀨弘教

軍務局

右提出又

別紙

別紙一葉添

艦政本部

第一部

水雷

會計課

馬公要港部

馬公要港部

馬公要港部

馬公要港部

45.3.7

0289

18

馬雲要港部明治四十四年度驅逐艇教練發射集會成績表

艇名	艇員數		艇員數		艇員數		艇員數		發射數	艇中百分比	艇員數	艇員數	艇員數	艇員數	艇員數	艇員數	艇員數	艇員數
	艇員數	艇員數	艇員數	艇員數	艇員數	艇員數	艇員數	艇員數										
海軍	三式	三式	三式	三式	三式	三式	三式	三式	八	四	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇
東雲	三式	三式	三式	三式	三式	三式	三式	三式	八	四	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇
霞	三式	三式	三式	三式	三式	三式	三式	三式	八	四	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇
合計	三式	三式	三式	三式	三式	三式	三式	三式	三	三	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇

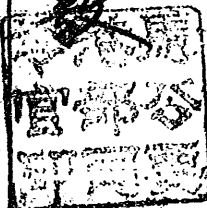
明治四十五年一月五日

惠見十一

馬雲要港部員代理

海軍大佐廣瀬弘毅

真珠湾發射報告 第四表



見

教育本部

軍務局

機密第一二三號

下口達

海軍部 司令官印

副官

軍務局接  
14. 上員

明治四十四年十一月十八日

其公敷設隊司令 大橋 親

其公要港部司令官代理

海軍大佐 廣瀬 弘 毅 殿

四十四年度魚雷發射練習

本年度魚雷教練發射練習、理由

一、年度予定作業中、於て変更せらるる魚雷發射、期

日遅し夏季海上静穏、候に發射を終了せし能はず

リレ

二、艦艇機、故障を生ぜし、海軍部工場に於て全修程

不可能ナリ

三十日、發射艇修程、為し使用不可能ナリ

0291

四土月初旬より兵欠ニ多ク數ノ欠員ヲ生シタル結果衆

射撃員ニ大缺員ヲ来シタル

五十月より常備地固有ノ恒信用ノ為ニ奈射施行機念

極メテ少ナカリシ

前記理由ニ依リ本年一度ノ突雷霰射ニ都未結了

付

右報告ス

(造)

0292



教育本部

軍務局

艦政本部

軍令部

海軍省

第五號

# 第三艦隊明治四十四年度軍艦教練發射集合成績表

艦名	種類	式	静動	夜間	合計	中白分比	備考
利根	水上	三式	静動	八	六二五〇	九二七	艦隊三月
響	水中	三式	静動	八	六二五〇	九二七	艦隊三月
吉野	水上	三式	静動	八	六二五〇	九二七	艦隊三月
利根	水上	三式	静動	八	六二五〇	九二七	艦隊三月
吉野	水上	三式	静動	八	六二五〇	九二七	艦隊三月

明治四十四年十一月二十八日

第三艦隊司令長官吉松茂太

局員

第一部

會計部

第二班

第一班

海軍

0293

45. 一月十日 軍務局様

意見

新馬利根二程ノ本教育年疫間規定発射回  
数大々発射力コトヲ得サリト特別任務ノ爲メ止  
ムヲ得サレトト認ム

終

海軍

0294

第二艦隊次機密第一四號

第一艦隊後任司令部

明治四十四年四月  
於佐世保被檢日進

明治四十四年三月與雷教練砲射成績表

砲射機位 發射種 發射不能連棟的種 魚雷從船機射程 魚雷誤偏差 潮潮力  
 墨特美 類發射法 回数方部 美速力 記号 有無 采 速力 單 潮波 電 向 遲 夜

軍艦日進 (三月二十七日施行)

右艦前部 伊式飛艇上	右艦後部 伊式飛艇上	右艦前部 伊式飛艇上	左艦後部 伊式飛艇上	左艦前部 伊式飛艇上	右艦前部 伊式飛艇上
基本 靜的	單獨	基本 靜的	單獨	基本 靜的	單獨
四	五	四	五	四	五
一二		一二		一二	
靜		靜		靜	
45x5 9x		x150		有	
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
不明	不明	不明	不明	不明	不明
不明	不明	不明	不明	不明	不明
不明	不明	不明	不明	不明	不明
0.23	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26
不明	不明	不明	不明	不明	不明
不明	不明	不明	不明	不明	不明

不達原因射程制定距離可也遠力之依  
 左方三言來偏差縱船機變調也下認公

教育本部  
 海軍本部

備

右舷後部加熱管回射後回頭部雨露管儘水面ヲ  
駛走ニ深度零米トテ蓋ニ密着空深度板ヲ横船ニ  
途中接合部ニ緩マリタルニ其因スルモノナランカ

考

沈没後雷ハ始マリ速力頗ル速緩ニテ頻繁ニ頭部ヲ雨露出  
ニ約八百米位置ニシテ蒸汽船ニ触接ニ茲ニ數回巡回運動ヲ  
主約七分間ヲ終ラ漸ク自信セテ蒸氣七十アリ頁浮量為  
メ沈没セリ本奥雷前四ノ發射ニ於テモ之ノ同狀態ヲ以テ沈  
没ニタルモノニテ引揚後回轉試驗等ヲ古クモ何等異狀ヲ  
認メズ或調和器發條方衰居リテ大氣壓流入際ニハ  
調和弁壓上セラレ空氣通路ヲ狹クシカ為メ緩速力ニ進  
ミタルニカ尚巡回運動ヲセハ触接ノ激動ニヨリ縱船機  
ノ變調ヲ来セルモノナルヘト思考ス

本發射管ハ各奥雷凡テ在リ偏シタリ即嵐潮ニ遇ル現象ニ見リ



左舷	旋回	是取	水上	伊式部	後部	右舷	旋回	是取	水上	伊式部	前部	右舷	位置	射撃	射撃	射撃	射撃	射撃	射撃		
					單独					基本											
三加	八	七加	六加	五	四	八加	七加	六加	五	四											
南鄭													軍艦春日			三月十九日			三月二十九日		
靜陸																					
45x5 / 95 x150													有			有			有		
三〇	二五七	二〇	一九八	二二九	二二二	二二二	二二二	二二二	一九八	二〇	二二五	二〇	進行中	米	米	米	米	米	米		
	R10		R50	右全	右全	右全	右全	右全	R40		R40	右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全		
有													右全			右全			右全		
右全													右全			右全			右全		
右全																					
右全													右全			右全			右全		
右全																					
右全													右全			右全			右全		
右全																					
右全													右全			右全			右全		
右全																					
右全													右全			右全			右全		
右全																					
右全													右全			右全			右全		
右全																					
右全													右全			右全			右全		
右全																					
右全													右全			右全			右全		
右全																					
右全													右全			右全			右全		
右全																					
右全													右全			右全			右全		
右全																					
右全													右全			右全			右全		
右全																					
右全													右全			右全			右全		
右全																					

前部伊式 水上艦艇 旋回 左舷 後部 伊式 水上 艦艇 旋回

備

四 五 四 五 六 七 八

九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇
二六	二六	二七	二六	二六	二六	二六
八	八	九	八	八	八	八
尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺
分	分	分	分	分	分	分
右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全

改定事項  
 一方は艦修正量、  
 適否  
 二加熱負雷調  
 整  
 三減氣調和器及  
 装置の關係  
 四加熱負雷、実運  
 力を見

本艦射撃は、主として、前部方五度、射撃を  
 行ふ。協合射撃は、規定より増加し、試験中、  
 適否及び、射撃の進行、正横射撃の、負雷、調  
 整諸元儘、射撃入状態、良否を、検査する、ア  
 リキ、而して、其結果、八共、満足  
 を得、程度、成績、可なり  
 七、命中、二、度、不到、達  
 八、加熱、負雷、四、発、射、せ、り、と、毛、四、回、回、  
 射、撃、中、に、負、雷、が、失、火、を、起、す

0298

考

信管之臭火セ入

二中途より冷走之符リ之モノ個原固噴出汚煤料量減少  
ニ付キ工廠へ検査修理ヲ委托セリ

三吳之大之号臭雷齋射降丁取尊子用釘折損検査結  
果螺釘孔四個以内箇擴大之僅ニ二個螺釘ニ強ニ有ル  
ニ過キルヲ齋見ヤリ本臭雷八号機ニ修理委托セリ

(終)

0299

為御參考

第二艦隊次機密第一四號

第一艦隊後任司令部

明治四十四年四月  
明治四十五年四月  
明治四十六年四月  
明治四十七年四月  
明治四十八年四月  
明治四十九年四月  
明治五十年四月  
明治五十一年四月  
明治五十二年四月  
明治五十三年四月  
明治五十四年四月  
明治五十五年四月  
明治五十六年四月  
明治五十七年四月  
明治五十八年四月  
明治五十九年四月  
明治六十年四月

四十一

明治四十四年三月與雷教練發射成績表

發射機位	發射種	發射不能連	標的種	魚雷從備檢	射程	魚雷誤差	洩漏	部事
墨特美	類發射	四數方(部)	美速力	記号有兵(采)	速力	深浸	洩漏	

軍艦日進 (三月二十七日施行)

右艦前部	左艦前部	右艦後部	左艦後部	右艦前部	左艦前部	右艦後部	左艦後部
基本	靜的	單獨	五	基本	靜的	單獨	五
四	二	二	二	二	二	二	二
有	有	有	有	有	有	有	有
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
0.23	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26
速力頗速	速力頗速	速力頗速	速力頗速	速力頗速	速力頗速	速力頗速	速力頗速
速力頗速	速力頗速	速力頗速	速力頗速	速力頗速	速力頗速	速力頗速	速力頗速

不達原因、射程制定距離より速力に依り  
左方言米偏差、縱舵機變調を以て認む

艦政本部

計

0300

備

考

右舷後部加熱管回射入後面頭部ヲ雨露等々儘水面ヲ  
駛走ニ深度取米トテ蓋ニ熱氣室深度板ヲ横船差ル  
途中接合部ニ緩ミアリタルニ其因スルモノナランカ

沈没與雷ハ始メリ速力頗ル速緩ミテ頻繁ニ頭部ヲ雨露出  
ニ約八百米位置ニシテ蒸氣船ニ融接ニ茲ニ數回旋回運動ヲ  
主約七分間ヲ終ラズ漸ク自停セテ熱氣七十アリ買得量爲  
メ沈没セリ本與雷ノ前回ノ發射ニ於テモ之ノ同狀能ク以テ沈  
没シタルモノニテ引揚後回轉部駁等ヲモトモ何等異狀ヲ  
認メズ或ハ調和器發條ヲ衰ヘ居リテ大氣壓流入降ニハ  
調和弁壓上セテ空氣通路ヲ狹クシガ爲メ緩速力ヲ進  
ミタルニカ尚旋回運動ヲセテ融接ノ激勵ニヨリ縱船機  
ノ變調ヲ來セルモノナルニト思考スル

本圖發射時ニ各與雷凡テ在テ偏シタリ即牛風潮ニ廻ル現象ニ見リ

軍艦春日 (三月十九日 施行)

右舷 前部 伊式 水上 砲 旋回 右舷 後部 伊式 水上 砲 旋回 左舷

基本的 静的 單獨

四 五 六 七 八 四 五 六 七 八

東部 静的

45x5 x150  
95

有

進行中 四画	二〇〇 二三五 五五	一七〇 二八六 六四〇	二〇〇	一七〇 二六八 八四〇	一五〇 二三一 五〇〇	一七〇 二三三 五〇〇	二〇〇 二九八 五〇	二〇〇	一九〇 二五七 七〇	二〇〇
右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全

右舷前部伊式砲四發  
射各六發雷八發  
百來直進ノ右舷方  
ニ教回圖ヲ連テ浮  
上ヤリ  
取調結果右舷  
大略左如シ  
右舷前部伊式砲  
ノ發射梯船ヲ浮  
空ノ右舷方界方  
ヲ連テ右舷方  
生シ右舷方  
瘦ニ取リ先梯船  
ニテ取リ先梯船  
ノ發射梯船  
心線船機ニテ右舷  
ノハシキレ少ク堅カ  
リ  
右ニ係固ク重複作  
用  
ニ依レルモナリ  
縦横機異状ニシ

前部伊式 水上艦隊 旋回 左舷 後部 伊式 水上艦隊 旋回

四 五 四 五 六 七 八

一九〇	一九〇	一九〇	一九〇	一九〇	一九〇	一九〇
二六〇	二六〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇
四〇	四〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全

改定事項  
 一 方位盤修正量ノ  
 適否  
 二 加熱負雷調  
 整  
 三 残氣調和器及  
 集氣ノ因件  
 四 加熱負雷ノ実運  
 力ヲ見

備

本艦射撃主として三節、船速ヲ於前部方五度ノ者射ヲ主  
 スル協合ニ発射火藥量(規定ヨリ増加シ引續キ試験中)勤  
 ヲ適不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>加<sub>レ</sub>者ニ施行セル正横発射ノ負雷調整諸元儘  
 三ヲ射入状態ノ良不<sub>レ</sub>良<sub>レ</sub>核スルアリキ而<sub>レ</sub>多<sub>ク</sub>其結果ハ共ニ満足  
 之得<sub>レ</sub>ル程度ノ成績ヲ収メタリ  
 七度命中ノ度不到達  
 故障一カ熱負雷ノ鬆走セサリトモ四回因雷管發火否也

0303

考

信管ニ莫火セシ

ニ中途引込走ニ掃リシモニ個原固噴出防煤料量過少ナ  
ニ付キニ敵ニ検査修理ヲ委付セリ

三、吳ニ大ニ号ニ吳雷奈射降丁飛導子用釘折損検査結  
果輝釘孔四個、以ニ箇擴大ニ僅ニ二個、螺釘ニ強ニ有ル  
ニ過キルニテ奈見ガリ本吳雷八千敵ニ修理委付セリ

(終)

0304



教育本部

第

軍務局

砲兵

司令部

第二艦隊次機察第一八〇〇號  
 記註心得本表ハ軍艦驅逐艦及水雷艇等ニ種別シ一所管内艦艇ノ教練發射集成成績報告ニ使用スルモノトス

第二艦隊 明治四十四年 年度 魚形水雷艇放線發射 發射集成成績表

艦名	發射機		魚雷標的ノ	發射	命中百分比	編隊	役務日數	記事
	數種類	制式						
日進	伊武山三 此取花 四門	三式 二式	靜的 動的	四七 六	五三 三	〇〇〇 七四五	〇〇 五四五	一八 三〇〇
草	伊武山三 此取花 四門	三式 二式	靜的 動的	一七 二	〇 〇	〇〇〇 四二八	〇 〇	二 三〇〇
長	伊武山三 此取花 四門	三式 二式	靜的 動的	一八 七	二九 三	〇〇 四七六	〇 〇	一八 三〇〇
長	伊武山三 此取花 四門	三式 二式	靜的 動的	一八 七	二九 三	〇〇 四七六	〇 〇	一八 三〇〇
長	伊武山三 此取花 四門	三式 二式	靜的 動的	一八 七	二九 三	〇〇 四七六	〇 〇	一八 三〇〇
長	伊武山三 此取花 四門	三式 二式	靜的 動的	一八 七	二九 三	〇〇 四七六	〇 〇	一八 三〇〇
長	伊武山三 此取花 四門	三式 二式	靜的 動的	一八 七	二九 三	〇〇 四七六	〇 〇	一八 三〇〇
長	伊武山三 此取花 四門	三式 二式	靜的 動的	一八 七	二九 三	〇〇 四七六	〇 〇	一八 三〇〇
長	伊武山三 此取花 四門	三式 二式	靜的 動的	一八 七	二九 三	〇〇 四七六	〇 〇	一八 三〇〇

第一節  
 明治四十四年七月十日

第二艦隊司令官八代六郎

魚形水雷艇發射報告 第四表

第二班

44 土河四日

軍務局接受

0305

魚形水雷發射報告 第四表

明治 年 月 日

第三艦隊司令官八代六郎

記註心得本表ハ軍艦驅逐艦及水雷艇等ニ種別シ一所管内艦艇ノ教練發射集合成績報告ニ使用スルモノトス

明治 年度

發射集合成績表

	艦名		發射機		魚雷		靜動	標的ノ	發射	數	命中百分比	編隊	役務日數	記事						
	種類	式	靜	動	靜	動									日間	夜間	合計	日間	夜間	合計
	種類	式	動	靜	動	靜									動	靜	動	靜	動	靜
	手車	保良此上 二種 多	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇				
											100.00	100.00	100.00							
											100.00	100.00	100.00							
											100.00	100.00	100.00							
											100.00	100.00	100.00							
											100.00	100.00	100.00							
											100.00	100.00	100.00							
											100.00	100.00	100.00							
											100.00	100.00	100.00							
											100.00	100.00	100.00							

海軍省

利達英艦隊機密第二號

於四十四年十月十日  
於自蘇士至戶海軍中

第二艦隊司令部

教育本部

軍務局

分	左舷				右舷				軍艦鞍馬魚雷教練發射成績
	前部	中	後部	中	前部	中	後部	中	
一	靜	〃	〃	〃	〃	〃	〃	有	射
二	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
四	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
五	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
六	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
七	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
八	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
九	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
十	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
十一	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
十二	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
十三	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
十四	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
十五	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
十六	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
十七	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
十八	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
十九	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二十	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二十一	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二十二	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二十三	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二十四	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二十五	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二十六	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二十七	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二十八	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二十九	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三十	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

0307

艦 安 式 水  
屋 式 中

右 (整)			今右		
二	三	四	二	三	四
静	一〇	一〇	二二〇	一九一	一五二
"	"	"	二二〇	一九一	一五二
"	"	"	二二〇	一九一	一五二
ナレ	ナレ	ナレ	ナレ	ナレ	ナレ
↑	↑	↑	↑	↑	↑
〃	〃	〃	〃	〃	〃

(備考)

一、第五二號魚雷ハ三回ノ熱走発射ニ於テ総テ完全ニ熱走シナセリ

一、第五五號魚雷ハ採收後浮室ニ浸水ノ爲メ沈没セリ故ニ引揚後其原因ヲ調査セシメ

沈降弁摺り合ヒ不良ナリト爲メ本艦ニ收揚迄ニ納付セヨト要セシ故ニ浮室内ノ空気圧力ノ

減スルト共ニ海水全室ニ満水セルニ依リ沈没スルコトヲ確メタリ

一、第五四號魚雷ハ熱走發射ニ回共ニ信管見ハ發火セシメ熱走セスルニ至リ全然噴霧器ノ

不良ニ原因スルモノト認ム

一、第五八號魚雷ハ熱走發射ニ回共ニ中途迄熱走セシ形跡ヲ認ムルニ信管發火中ノノ

熱走セルモノニシテ是亦噴霧器ノ不良ニ原因スルモノト認ム

一、其他發射管、魚雷縱舵機等ニ故障ナシ

軍艦利根魚雷教練發射成績

備考  
右舷中部部

艦尾保				左舷中部保式				右舷中部保式			發射機位置種類
合右				(如熟)				(冷走)			發射種類
一	三	二	一	一	三	二	一	三	二	一	發射法
一〇	一〇	〇	〇	一〇	一〇	〇	〇	一〇	〇	〇	發射本艦速
合右				合右				靜			標的種類
合右				合右				45x5x150 95			魚雷
〃	〃	有	無	〃	〃	有	無	〃	有	無	發射機
二〇〇〇	一三〇〇	八〇〇	/	二〇〇〇	一三〇〇	八〇〇	/	一三〇〇	八〇〇	/	射程(米)
三三〇〇	二四八〇	三〇三	/	不明	二七一一	三三八六	/	不明	二〇二	/	發射機
五九一	八七〇	尺九	/	尺九〇〇	尺三〇	尺三〇	/	尺六偏斜	尺一五	/	偏差(米)
五	七〇	九	/	〇	〇	〇	/	〇	〇	/	發射方向
↑	↑	↑		↑	↑	↑		↑	↑		注
			無裝氣發射				右カ大偏斜				車
							無裝氣發射				
								故障			
											無裝氣發射

第③面長ク、始メ進行状態良好ナリトシ約六分米空天附近ニ至ルガニ其時々  
跳躍ト終リニ屋上カニ小円形ヲ畫キ備止セリ收降后分解セシ横縦航機ニ至ル空気管ノ  
附ケ根ノ鎖付ケ部嵩シ居ルヲ発見セリ

第③面ニ於テ奥層ヨリ破損シ第②面ニ於テ機油由テ空ヲ用ヒシニ大破損ナリトシ其時々空射ヲ取止メリ

一 龍艇中部ノ部

最後ノ大傾斜ハ全一縦航機ヲ用ヒタル爲メ其調整狂ヒタルヲ見ル(ト思フ)

一 縦尾ノ部

第②面發射ノ機航機ノ作動不充ナリトシ爲メ縦面航跡ハ辨不良ナリ

第③面(空天)ノ傾斜セシメ空ナルヲ縦航機調整ノ狂ヒタル結果ト判断シ然レテ於テ

ハ縦航機ヲ取リ換フ發射セリ

此ノ時々空天本機縦航機ハ本機ニ昇降スルガ調整ノ狂ヒタルヲ以テ三階以上ノ空

射ハ不守心ナルヲ龍艇及縦尾其ノ此ヲ記ス

(終)

本部

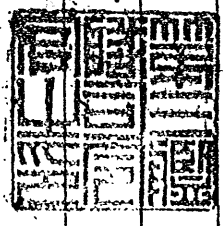
機要本部

教育本部

第三艦隊

明治四十五年七月廿九日

第三艦隊司令官名和又郎



海軍大臣勇齋藤 實殿

第二部長 書

部員

軍務局

明治四十四年及魚形水雷教練本部不施行件 一葉

局員 植野延龍卷等ノ分

一 左

第一部長

水雷形水雷教練本部不施行件 二葉  
第二艦隊及駆逐艦隊ノ分

右進達

第二班

第一班

海軍

0311

参謀

圖書

卷九三號(四)

明治四十四年三月十日

卷頭 艦長 海軍少尉 磯川三郎

第三艦隊司令官 島合次郎 殿

四十四年度 莫形水雷教練發射不施行件

横鎮野第六十九号ノニ依リ本艦發射管及莫形水雷並

ニ在附屬品全部揚陸ニ付四十四年度 莫形水雷教練發射

全部施行セム

右進呈ス

(封)

海軍

(東京北村館)

0312



三驅機密第二六二號ノ二

明治四十四年十一月八日於清國九江

第二驅逐隊司令荒川仲吾

第三艦隊司令官川島令次郎殿



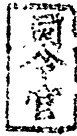
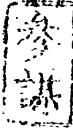
魚形水雷教練發射一部不施行ニテ報告件

本隊各艦明四十四年度魚形水雷發射中應用教練發射トシテ衝  
突頭部付水雷發射一回ハ第一艦隊附屬中十月聯合演習際  
發射實施豫定ナリト処十月十八日俄ニ第三艦隊ニ編入セリテ  
務都合上逐々其機魚之不施行ニ了候條魚形水雷發射規則  
第三十七條ニ基キ

右報告ス

(終)

海軍



0313

(東京北村納)

敷波機密第一三三號ノ二

明治十四年五月二日

敷波驅逐艦長堀江平彌

第三艦隊司令官川島今次郎殿

四十四年度水雷發射一部未濟報告ノ件

十月十六日第三艦隊附屬セシヨラレ其ノ任務上四十四年度規定水雷發射一部

施行不致候条

ヲ報告ス

終

海軍

0314

母

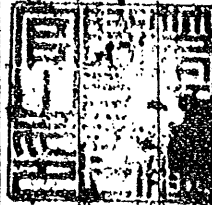
供覽

第三艦隊機密第六編

明治四十四年一月十日於「ハイアス」艦上旗形対馬

第三艦隊司令官川島今次郎

海軍大臣身野齋藤實殿



教育本部

明治四十三年度軍艦放練發射集合成績表

壹通

第二部倉山室 立息見

壹通

軍務面初

右進(上)又

(別紙二通添)

(終)

總政本部

第一部村松 水雷

會計課

軍令部

Various stamps and handwritten notes on the left side of the document, including names like '高橋' and '神田'.

海軍

Handwritten numbers and marks on the right margin.

0315

記註心得本表、軍艦駆逐艦及水雷艦等二種別に所管の艦艇、教練射集成績報告に使用スルモノトス

第三艦隊明治四十三年度軍艦教練發射集合成績表

船名	發射機		標的	發射數	命中百分比	標準發射力	最大射程	動的速	編隊	發射數	從務員數	記	事	
	靜	動												
明石	水上	水上	靜	四	三七	四一	五〇〇	七八四	九七四	十二節	二	二七〇米	一ヶ年	艦隊
須磨	水上	水上	靜	四	三五	三九	一〇〇	九七一	九七四	十二節	一	一一〇	一ヶ年	艦隊
<small>標準發射力、最大射程、動的速、編隊、發射數、從務員數、記、事</small>														

明治四十四年一月十日 第三艦隊司令官川島令次郎

魚形水雷發射報告第四表

明治四十四年一月十日

第三艦隊司令官川島令次郎

明治四十三年度魚雷教練發射成績に関する意見  
一當隊ニ於テ四十三年度魚雷發射ヲ施行シタル艦ハ明石  
須磨ノ二隻ニシテ共ニ澎湖島近海ニ於テ教練發射ノ  
全部ヲ結了シ且特種發射トシテ魚雷ノ偏斜修整  
其他諸種ノ場合ニ應ズル各種ノ發射法ヲ實施攻究  
セリ而シテ明石ハ炭水ノ都合上標準全カ五分ノ四以上ノ  
速カニ對スル發射ヲ實施スルコト能ハス之ニ更フルニ十節ノ  
教練發射ヲ以テセシメタリ  
本期間ヲ通シ各艦魚雷發射ノ概況ヲ安ホスルニ敬言備  
区域内射場少ナキコト任務上ノ都合及天候風浪ノ為  
メ發射ノ機會ヲ得ル能ハス七八月馬公田航ノ時機ニ於

0317

テ急速實施セシムルノ止ムヲ得サルニ至リ隨テ不斷ノ練  
磨ト秩序的訓練トヲ勵行スル能ハスレテ全般ノ訓練  
理想的精緻ノ域ニ達スルノ違<sup>チ</sup>カ<sup>リ</sup>レト雖モ本年度  
魚雷發射施行回數ハ當隊任務上ヨリスレハ實ニ稀  
有ノ多數ニ達シ隨テ一般艦員ヲレテ水雷術ニ對スル知  
識ヲ向上セシメ又斯術ノ進步發達ヲ獎勵シタルノ効  
果著大ナルモアリレト認ム

二明石魚雷發射成績ノ須磨ノ其レニ比シ著シク劣  
リタルハ全艦役務ノ都合上長ラク所屬軍港若クハ  
其他ノ魚雷縱舵器發射機ノ修理工場所在地  
ニ取ルコト能ハス馬公方面ニテ魚雷發射ヲ開始スルヤ  
魚雷ノ故障續出シ且縱舵器ノ如キハ要港部修  
理工場ニ於テ應急修理ヲ加ヘ發射ヲ續行スルノ止ムヲ

0318

得サルニ至リ又發射機ノ丁形導子ヲ導キ條片ニ弛  
ミラ生シタル等不備ノ點多カリニ基因スル者ト認ム  
三當隊射場トシテ使用シタル澎湖島候角附近ノ海面  
ハ潮流ノ影響ハ免カレサルヘキモ夏季ニ於テハ當隊警  
備區域中最良ナルモノト認ム本期明石教練發射  
中與雷ノ沈没アリシモ當日中ニ之ヲ搜索發見シ且  
其沈没位置モ著シキ變位アラサリシ等先適當ナル  
射場ト言フヘシ

(終)

供覽

練習艦隊二九八號

明治三十四年十一月廿五日 大橋總督

練習艦隊司令官加藤定吉

練習艦隊司令官印

海軍大臣男爵齋藤實殿

副官 成績表提出ノ件

明治三十四年度軍艦教練發射集合成績表

吉葉

右提出ス

郵員

總

教育本部

第三部

平野

濟

艦隊

濟

第一部

水

水

水

水

軍令部

濟

第一班

水

水

水

水

海軍

二九七

四十四

軍務局

0320



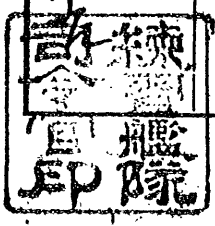
記註心得本表ハ軍艦驅逐艦及水雷艇等ニ種別シ一所管内艦艇ノ教練發射集合成績報告ニ使用スルモノトス

練習艦隊 明治四十四年度 軍艦教練 發射集合成績表

艦名	發射機數種類		魚雷標的ノ		發射		命中百分比		編隊		發射數	役務日數	記事
	靜	動	靜	動	日間	夜間	日間	夜間	日間	夜間			
阿蘇	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第6	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第7	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第8	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第9	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第10	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第11	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第12	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第13	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第14	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第15	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第16	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第17	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第18	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第19	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第20	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第21	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第22	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第23	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第24	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第25	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第26	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第27	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第28	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第29	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊
第30	1	1	1	1	1	1	100	100	1	1	2	4	練習艦隊

明治四十四年十一月二十五日

練習艦隊司令官加藤定士



魚形水雷發射報告 第四表

0321

司令長官

参謀長

副官

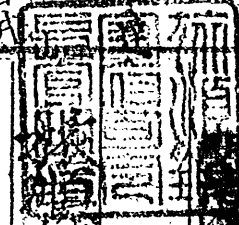
本署

2

三月八日

教育本部

軍務局



山田彦彦

副官 發射ヲ施行セザル報告

本隊ニ於テ八年度教育ヲ開始スニ當リ豫メ作業ヲ定メテ十月ノ期ニ  
全部ノ發射ヲ結了スル豫定ヲ以テ極力訓練ニ從事セリトモ左記事情  
ニ由リ及ニ發射ヲ完結スルノ能ハズ

理由

一、冬ニ北風強吹シ海上平穩スルノ稀ニ至リ寒氣酷烈ニ發射時機ニ乏  
シ

二、南ノ射場ニシテ夏季ニ偏南風・曝露スルヲ以テ動モス

第三、長濱東ニシテ發射ヲ爲スル

旅

0322

三、此、地方ハ潮流比較的大ニシテ、發射ニ際シ或ハ標的圧流セラレ或ハ航路浮標ノ沈没スルアリ作業順当ヲ欠ク一屬ニテリシ

四、豫期セザル莫雷故障ノ爲メ、積素ヲ妨ケラレシイアリ

五、警備ノ任務ニ服スルヲ以テ時々行動ヲ妨ゲラレ予定、如ク發射ヲ遂行シ不能

六、有香、擊残リハ右艇僅ニ三四本ニ過ガザリシヲ以テ上月ニ至リ發射ヲ予

定ナリシモ、靖國事變ニ際シ待命中ノ下、テ發射ヲ施行ス一ヲ

得ス

各艇ノ擊残リ數左表ノ如シ

艇名	發射種類	發射數	記	事
千島	應用教練、左動的	四	艇速標準、左動的、速力十節並	
真鶴	左	三		右
隼	左	四		右
鷲	應用教練、右動的	三		右

右報告ス

海

軍

終

0324